

ガートナー：インフォシスは国際リテール・コア・バンキングのリーダー

バンガロール、ロンドン、ニューヨーク(2013年10月10日)：インフォシスが提供するFinacle™コア・バンキング・ソリューションが評価され、インフォシスはガートナー国際リテール・コア・バンキング*レポートにおいて7回連続でリーダーに位置づけられました。今回の当ソリューションの認定は、グローバル・ベンダー20社を実行力とビジョンの完全性という2つの主要指標で評価した結果に基づいたものであり、Finacle™は両方の指標においてリーダー・クアドラントの最も高い位置に置かれました。[ガートナーの国際リテール・コア・バンキングのマジック・クアドラントに関するレポートにはここからアクセスできます。](#)

ガートナーによると、「リーダー・クアドラントに位置づけられたベンダーは市場について高レベルの理解度を有している傾向にあり、市場の動きを監視できるように自社のビジネスを作り上げることで製品ロードマップに進化的イノベーションが注ぎ込まれるようにしています。当グループの約半数はソフトウェア開発に関する品質認定(CMMIなど)を既に取得しているか、現在取得に向けて取り組んでいます。一部例外を除き、リーダーは、銀行が差別化を図る上で必要とするより繊細な機能へのアクセス性を向上させる一つの方法として「小さな」アーキテクチャーを考えるか、コンポーネント・ベースのアーキテクチャーを目指すことが増えています。」

コメント

ガートナー社バイス・プレジデント ドン・フリー氏：

「ガートナーは、国際リテール・バンキング市場の未来に対してサービスを提供するコア・バンキング・ベンダーの勢力図を評価しました。今回の評価により、これらのベンダーおよび製品の最先端の戦略が明らかになり、それぞれが秘める製品／サービス提供力が明確化され、変化する銀行業界の状況に対する各社の適合性を確認することができます。このマジック・クアドラントは、クリティカルな経営戦略と技術トレンドを巧みにバランスさせる上でベンダーや製品の特性がどう関係するか？という最も重要な課題にフォーカスして、CIOをサポートすることができます。」

インフォシスFinacleグローバル・ヘッド ハラゴパル・M：

「Finacleが、お客様である銀行の壮大なビジョンを実現する上で重大な役割を果たし、新商品やサービスの提供を助け、それと同時にお客様の顧客に対して高品質なバンキング体験を提供できていることは、インフォシス全体としてとても喜ばしいことです。長年にわたりガートナーのマジック・クアドラントで常に高評価を得られているのは、Finacle™が世界の銀行業界で選ばれるソリューションであり続けることを第一の目標とする揺るぎない決意の表れです。」

*2013年10月8日ガートナー発行のドン・フリー氏／イーサン・ワン氏作成「国際リテール・コア・バンキングのマジック・クアドラント」。

ガートナーは、ガートナー・リサーチの発行物に掲載された特定のベンダー、製品またはサービスを推奨するものではありません。また、最高の評価を得たベンダーのみを選択するようテクノロジーの利用者に助言するものではありません。ガートナー・リサーチの発行物は、ガートナー・リサーチの見解を表したものであり、事実を表現したものではありません。ガートナーは、明示または黙示を問わず、本リサーチの商品性や特定目的への適合性を含め、一切の保証を行うものではありません。

当社について

インフォシスはビジネス・コンサルティング、テクノロジー・ソリューション、アウトソーシング・ソリューションのグローバル・リーダーです。インフォシスは30か国以上の国々のお客様が最新のビジネス・トレンドよりも一歩先を行き、競合他社をしのぐ活躍が出来るように支援を提供します。戦略的インサイトと卓越した実行力を融合させた

革新的なソリューションを共同創造することで、お客様が移り変わりの激しい世界に対応し、成長できるようにサポートします。

www.infosys.com を訪れ、年商74億ドルおよび15万5000人以上の社員をかかえるインフォシス (NYSE: INFY) が今日どのように未来企業を構築しているかお確かめ下さい。

セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益の変動、外国為替レートの変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のあるIT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2012年会計年度(2013年3月31日付)年次報告書(Form 20-F)や2013年第1四半期(2013年4月ー6月期)の四半期報告書(Form 6-K)を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.govでご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、当社により随時発表された将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

連絡先

インフォシスリミテッド日本支店

マーケティングマネージャー 安藤 穂

Tel: 03(5545)3251 Email: jo_ando@infosys.com